

恵仁会通信 (戮力協心) vol.39

発効日 2012年5月1日

発行所：医療法人社団 恵仁会 きらら歯科クリニック
〒901-0244 沖縄県豊城市宜保 370
TEL 098-840-5557 FAX 098-840-5558

ビスフォスフォネート系薬剤内服の方の歯科治療について



ビスフォスフォネート系薬剤 (以下 BP 薬) というお薬をご存知ですか？

現在、日本国内で内服されている患者さんは、約 500 万人ともいわれています。

どういうお薬かという、女性に多い骨粗しょう症の治療薬や悪性腫瘍の治療薬として使用されています。

お薬自体は非常に良いもので、長く服用されてきましたが、近年薬の副作用によりまれに歯科治療後の傷の治りが悪かったりすることがわかってきました。

具体的には、歯を抜いたり、歯周病の治療やインプラントの治療をしたあとに、まれに傷が塞がらずあごの骨が腐ってしまうことがあります。特に、経口薬（飲み薬）よりも注射薬（点滴）を使用している場合上記の副作用が起こりやすいといわれています。

BP 薬として、日本国内で使用されているお薬は主に下記にあげられるものです。

注射薬

アレディア、オンクラスト、テイロック、ビスフォナール、ゾメタ

経口薬

ダイドロネル、フォサマック、ボナロン、アクトネル、ベネット

では、お薬を使用している方は歯科治療はできないのでしょうか？

経口薬を内服されている場合、主治医と相談の上 休薬（お薬をいったん中止すること）が可能であれば休薬してもらい、抜歯等を行うことが可能です。

注射薬の場合、休薬が困難なことが多いため、なるべくは抜歯等の歯科処置は行わないほうがよいですが、状況に応じて行うこともあります。そのような場合には、大学病院や大きい病院での処置が望ましいと思われれます。

いずれにせよ、副作用のリスクはゼロではありませんので、担当の歯科医師、医師とよくご相談されることをお勧めいたします。

まずは、受診の際どういったお薬を飲んでいるかをきちんと伝え相談しましょう。

